



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2013年 No.2

(通巻28号)

4月21日発行

4月も終わりに近づき、新緑の季節がやってまいります。

皆様方にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

今号では、2月、3月の活動報告と、上半期後半のイベント情報を中心にお届けいたします。

★★★ 活動報告 ★★★

★ ディウフ会長の調布中学校訪問 ★

2月5日(火)、ディウフ会長は、調布市立調布中学校を訪問しました。2年生の5クラス、約180人の生徒に、紙芝居「みんなつながってる」や画像を使いながら、セネガルの子ども達の状況とバオバブの会の活動について話しました。後日、感想文が届けられました。「セネガルの子ども達の学校の様子を聞いて、自分達がとても恵まれていることがよくわかった。これからは、この環境を大事にして、もっとしっかり勉強したい」「子どもはみんなの子ども」という考えは素晴らしいと思った」「地球上の人々はみんなつながっている」ということ、見て見ぬ振りはいけないということが、よく理解できた。自分も、少しでも、人を助けたり、人の為になることをやっていきたい」「ディウフさんのやっていること、バオバブの会の活動は凄い。自分も、できることから、ボランティア活動を始めたい」等々の感想が綴られていました。

★ 「マサンバさんがやって来る アフリカ連れてやって来る」報告 (文責：柳田) ★

3月3日(日)、『マサンバさんがやって来る アフリカ連れてやって来る』に参加しました。
横浜市・青葉区田奈町にて。

第5回アフリカ開発会議(TICD V)パートナー事業のひとつとなるこのイベントは、食、絵本、ゲームを通してアフリカやセネガルに関心を持っていただくというもの。主催は横浜市の青葉国際交流ラウンジと青葉区役所。地元の親子が参加し、家庭的でくつろいだイベントとなりました。

まずはJA 田奈の調理室でマフェ作りからスタート。ピーナッツペーストをたっぷり入れるこの料理は、参加したみなさんにとって初体験。ピーナッツ味のカレーのみたいなもの?! こんなに大量にピーナッツを入れるの? と、ビックリされながらの調理でしたが、結果、田奈で作られた野菜とセネガルスタイルが融合したおいしいマフェができました。煮込んでいる間には、セネガル式ミントティー「アッターヤ」の実演とご賞味。高いところから注ぎ、泡を立てて淹れるというセネガル式の作法を、民族衣装に身を包んだディウフ会長が披露し、みなさんに味わっていただきました。

午後は場所を青葉区区民交流センターに移し、セネガルのスポーツや服装のお話をしたあと、遊びの時間に。紙芝居『みんなつながってる』と絵本『アフリカの音』の朗読。飯山(か)さんによる太鼓のリズムに合わせた手遊びや、ディウフ会長によるロバのいななき声も交え、音とリズムと動きのある楽しい朗読となりました。

最後はみんなで輪になって「ポリポ」ゲーム。自分の前にある小物や石などを「ポーリポ、ゲーリメ・・・」という歌に合わせて隣りの人に移動させていく、ガーナ発祥のゲームです。出だしはゆっくり、そしてどんどん

テンポを速めていくという、いたってシンプルな進め方ですが、やってみると意外にも難しい。アフリカの小さな楽器たちを合いの手よろしく鳴らしながら、大盛り上がりとなりました。

★ 「セネガル物語」報告 (文責：柳田) ★

3月16日(土)、アフリカルチャー主催の『セネガル物語』Vol4に参加しました。

恒例となった『セネガル物語』。バオバブの会はセミナーとケベサック等の物販で参加しました。

ディウフ会長によるセミナーは、セネガルの宗教がテーマ。アニミズムなどの伝統宗教やイスラム教に関するお話でした。何かと誤解や偏見を抱かれることもありがちなイスラム教について、正しく伝える機会を持てたのは有意義なことだったと思います。「ジハード」とは「聖戦」ではなく「正義を守る」のが本来の意味であること、たとえば独裁者や戦争に対して堂々とノーといえるのもジハードなのだというお話などはとくに、マスメディアでは報じきれないイスラムの考え方を伝えるものでした。セネガルのムスリムの閉鎖的ではないところ、いい意味でのユルさに関しても、参加した人からは意外だという声が聞かれました。また、自然界のあらゆるものに魂が宿るというアニミズムは、アジア的・日本的な自然観やスピリチュアリティにも通じるもの。アフリカと日本の精神性は近い、と感じていただけたと思います。

コンサートには太鼓奏者の日本人グループ「アニチェ」、アフリカルチャー代表のサンハレもえこさん率いるダンスチーム、サバール奏者ボガ・ンジャエさんのグループが出演。第1部のアニチェの演奏中に加わったのは、なんとセネガルの「ライオン祭り」！ ソウルバという大きな太鼓の連打に乗って、ライオンの扮装をした踊り手が、たてがみを振りながら場内を走ります。子供に襲いかかるようなそぶりも見せたりして、さながら日本のなまはげのよう。セネガルでも地域によってはなかなか見られないものだけに、貴重なプチ祭りとなりました。第2部では、ステージから突然ボガさんに呼ばれてディウフ会長が登場！ 子守歌などを歌い、美声を聴かせてくれました。

ほかにも、「FGM(女性器切除)廃絶を求める女たちの会」によるセミナー、セネガル料理の販売、太鼓のワークショップ・・・と、会場となった神奈川公会堂では朝から夕方までセネガル関連・アフリカ関連のプログラム尽くし。日本在住のセネガルの人々も多く訪れ、セネガル・デイとなりました。

★★★★ イベント情報 ★★★★★

★ 横浜市港北国際交流ラウンジ <http://homepage2.nifty.com/kohokuloung> 企画

「アフリカと友達になりましょう」 ★

日時：2013年4月28日(日) 13:30～15:30

場所：港北国際交流ラウンジ 横浜市港北区大豆戸316-1 TEL:045-430-5670

JR 横浜線・東急東横線 菊名駅西口 徒歩10分

参加費無料 予約不要

バオバブの会はディウフ会長のセミナー、共に参加のアフリカルチャーは歌とダンスを披露します。

★ 外務省主催 横浜市共催

「アフリカンフェスタ2013」 <http://africanfesta2013.com> ★

日時：2013年5月11日(土) 11:00～17:00

2013年5月12日(日) 10:00～17:00

場所：横浜赤レンガ倉庫（横浜市中区新港一丁目1番） イベント広場及び1号館1F/2F/3F



[会場(横浜赤レンガ倉庫)へのアクセス]

横浜赤レンガ倉庫：〒231-0001 横浜市中区新港一丁目1番

<電車でお越しになる方>

- JR・市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩約15分／「関内駅」より徒歩約15分
- みなとみらい線「馬車道駅」または「日本大通り駅」より徒歩約6分／「みなとみらい駅」より徒歩約12分

【所在地】 横浜市中区新港一丁目1番 【電話】 1号館：045-211-1555/2号館：045-227-2002

雨天決行 入場無料

バオバブの会は、NGO コーナーに出展し、展示による活動報告を行う他、ケベサック（セネガルの女性グループ製作のアフリカン・プリント布バッグとポーチ）やアフリカ関連児童書他の販売を行う予定です。

★ NGOゴスペル広場主催 <http://www.gospelhiroba.com/html/index.html>

「第4回 GOSPEL FOR PEACE」★ <http://www.gospel-sq.com/gp2013/> *

日時：2013年6月1日（土）16:00～20:15

場所：新宿文化センター大ホール 〒160-0022 新宿区新宿 6-14-1 TEL. 03-3350-1141

JR/京王線/小田急線 新宿駅東口 徒歩15分 西武新宿線新宿駅 徒歩15分 都営大江戸線 東新宿駅徒歩5分(A3出口)

東京メトロ副都心線 新宿三丁目駅徒歩7分(E1出口) 東新宿駅徒歩5分(A3出口)

東京メトロ丸の内線 新宿三丁目駅徒歩11分(B3出口) 都営新宿線 新宿三丁目駅徒歩10分(C7出口)

前売：1800円 当日：2300円（年少～小学生500円）

前売り券はチケットぴあ セブンイレブン サンクス サークルKで販売（詳細は上記HP*）

ゴスペルを楽しく歌いながら社会貢献をめざすNGOゴスペル広場が、年に一度開催する、パワフル&ハートフルなチャリティーコンサートです。今年は結成5周年にあたる6月に開催。4人の黒人シンガーと、全国の支部、キッズ&ママなどGQファミリーが大集合！

バオバブの会は、ロビーに出展し、展示による活動報告とケベサック・絵本他の販売を行います。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★ 第8回『一夫多妻』下

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ （訳・文責 水野）

先回は、一夫多妻を、「家族」という観点からのみ、分析してみました。が、結婚は、単に家族の問題、家庭の中での権利と義務の問題ではありません。それは、心の問題、そして、生理的欲求の問題でもあります。質の異なる身体と生理を持つ、二つの個人の問題なのです。そして、多くの要素は人によって異なり、また、時とともに変わるものです。例えば、世界で唯一の人と信じる男性の為に熱烈な愛の虜となり、彼なしでは生きることができず、彼の為なら体も心もすべて捧げようとする女性がいます。一方で、結婚生活を始めた頃はそれな

りの情愛を示していたとしても、20年も過ぎた後では、もはや夫を求めるようなことはなく、関心も失い、彼が健康でいることだけを願い、時には留守をするほうを好む女性も少なくありません。「亭主は達者で留守がいい」は、日本の女性がしばしば笑いながら口にする言葉ですが、実は日本のみではなく、世界中で聞くことのできるものです。しかし、男性はめったにこうは言いません。ですから、このようなことも、男性が複数の妻を持つとする理由のひとつになるのかもしれない。

ところで、夫の側は、一夫多妻をどう見ているのでしょうか？

多数の妻を持つ夫の生活は、多くの人が考えるように、なんの権利も持たないたくさんの女性にかしづかれた王様のように常に快適、という訳ではありません。

夫は、家庭の平和と調和の責任者であり、守り手です。そして、この責任は、妻と子どもの数が多いほど重くなります。経済的な要求についても、言うまでもありませんが、妻や子どもの数によって増大します。

しかし、最も厄介で最も神経を使うのは、妻達を平等に扱わねばならないことです。彼女達は、ときに、ひどく激しく競い合います。また、ときには、欲しいものを手に入れる為に夫と二人だけの夜のひとときを利用するといった、手練手管を使うことがあります。さらに、女性達同士で友人か姉妹のように団結し、一枚壁となって、彼女達の決まりを夫に強いることもあります。ナイジェリアのハウサの人々が「**家畜の群れが力を合わせれば、ライオンも空腹のまま眠らせることができる**」と言うように。

どのような場合でも、夫の生活は楽ではありません。事態を解決する為に、彼が妻達の言葉に辛抱強く耳を傾ける能力と公平さを持っていることを、常に証明しなければなりません。厳しいことに、妻達が、姉妹のように団結するか、敵のようにいがみ合うかは、ほぼ、夫の人格と能力いかんにかかっているのです。この意味で、夫は、常にプレッシャーをかけられ、試されている訳です。

公平さに関しては、ウォロフの人々の次のような助言を、記憶にとどめておく必要があります。「**双子を持つ母親は、いつも、仰向けになって寝なければならない**」二人の赤ん坊に、平等に、お乳を吸うチャンスを与える為ですね。そして、ガボンのファグの人々が「**もしも平和を望むなら、妻達の言葉をよく聞きなさい**」と注意するように、よく聞くことが重要です。最も甘やかなひとときでさえ。なぜなら、ブルキナファソのモシの人々が言うように、しばしば、「**妻の畑の広さは、夜、決まる**」恐れがあるからです。

妻達の言葉をよく聞き、公平さに気を配る。それは、アフリカの社会で一夫多妻を行う男性にとって、家族の中に平和と調和を築く為の唯一無二の方法です。子ども達はみんなの子ども達であり、母親はみんなの母親である、という家族の中で。

けれども、これをうまくやっていくのはあまりにも大変だと思うなら、コンゴのアザンドの人々の言葉を思い出してください。「**犬は、自分の一枚の舌だけで、体中を綺麗にする**」です。一人の妻だけ。確かに、このほうが、ずうーっとシンプルですね！

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215